

平成27年度第2回総合教育会議

- 1 日 時 平成27年10月27日（火） 10時30分～11時30分
- 2 場 所 ニューオータニイン札幌 2階 鶴の間
- 3 出席者 札幌市長 秋元 克広
副市長 町田 隆敏
教育長 長岡 豊彦
教育委員 山中 善夫（教育長職務代理者）
白井 博（教育長職務代理者）
池田 光司
池田 官司
阿部 夕子
- 4 事務局 教育委員会 教育次長 大友 裕之
生涯学習部長 長谷川 雅英
総務課長 竹村 真一
教育政策担当課長 加藤 聖治
庶務係長 井上 達雄
教育政策担当係長 堀川 信乃
庶務係 松本 淳吾
教育政策担当 大脇 章広
- 5 傍聴者 8名（報道関係者3名含む）
- 6 議 題 札幌市の教育等の振興に関する「大綱」（案）について

【開 会】

○長谷川生涯学習部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第2回札幌市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めます札幌市教育委員会生涯学習部長の長谷川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、資料の確認をお願いいたします。

お手元には、第2回総合教育会議の次第、札幌市の教育等の振興に関する大綱（案）、座席表の以上3点をお配りしております。

ございますでしょうか。

それでは、本日は、第1回に続き、札幌市の教育等の振興に関する大綱につきまして、皆様にご協議をお願いしたいと存じます。

第1回の会議を簡単に振り返りますと、市長が目指す札幌のまちづくりの方向性と札幌市教育振興基本計画にある市の教育が目指す人間像が合致しているという市長のご認識に基づきまして、大綱の策定に向けては教育振興基本計画をベースに検討していくことについて、教育委員の皆様からご賛同をいただいたところでございます。

それでは、大綱の策定者でございます市長にお進めいただきたいと存じます。秋元市長、よろしくお願いいたします。

【議 事】

札幌市の教育等の振興に関する「大綱」（案）について

○秋元市長 皆さん、おはようございます。

本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、大綱の策定について協議を進めてまいりたいと思います。

前回のお話を踏まえまして策定いたしました大綱の案を用意しておりますので、そちらをご覧いただきたいと思います。

まず、大綱の名称及び対象とする範囲についてご説明をさせていただきます。

私は、まちづくりの挑戦の一つとして、「女性が輝き子どもたちが健やかに育つ街」さっぽろをつくることを施政方針に掲げております。未来を担う子どもたちの中にある生きる力を育み、大きく伸ばしていきたいと考えておりまして、世界の舞台で活躍するさっぽろっ子になってほしいと願っております。

こうしたことから、この大綱は、「育む さっぽろっ子」というフレーズを入れた名称としております。また、教育の対象といたしましては、子ども以外にも含まれますけれども、札幌の未来を担うという観点から、「子どもの教育」を対象として策定をしたいと考えてございます。

次に、構成についてご説明をいたします。

冒頭にはこの大綱を定めるに当たっての思いを簡潔にまとめた宣言文を置いております。続いて、大綱は、総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものでありますことから、「教育の方針」とその方針に沿った「取組の柱」を設定しております。

教育の方針には、先ほどもお話をいたしました子どもたちへの思いを位置付けて、「子どもたちの中にある『生きる力』を育み、大きく伸ばすことで、世界の舞台で活躍する『さっぽろっ子』を育てます」といたしました。

取組の柱は、三つ設定しております。

上から順に説明をいたします。

一つ目の柱は、「子どもたちが安心して生活し学習することのできる環境を整えます」といたしました。

私は、子どもたちの生きる力を育むためには、まず、その土台となる環境を整えることが必要だと考えております。教育振興基本計画に掲げられている取り組みでは、「命を大切にする指導の充実」や「子どもが安心して学べる支援や対応の充実」が掲げられておまして、この柱に関連をいたします。

二つ目の柱は、「学びや成長の機会を充実させ、子どもたちの可能性を広げます」といたしました。

子どもたちが自分自身の可能性を見出し、持てる力を大きく伸ばしていくためには、日ごろの学習はもちろんのこと、スポーツや芸術など、あらゆる分野での成長の機会や場を増やすことが大切だと考えております。これは、教育振興基本計画における「分かる・できる・楽しい授業の推進」や「体力向上の推進」などと方向性を同じくしていると考えております。

最後に、三つ目の柱は、「ふるさと札幌への思いを持ちながら国際的な視野で創造的に考えることができる子どもたちを育みます」といたしました。

私は、札幌で育った子どもには様々な分野で活躍をしてもらいたいと考えております。そのためには、幅広い視野や創造性を身に付けることが重要だと考えております。教育振興基本計画では、「札幌らしさを実感するとともに国際性を育む学びの充実」や「地域に開かれた学校」など、私の考えと同じ取組が掲げられております。

どの柱も、札幌市の教育が目指す人間像「自立した札幌人」の育成に資するものと考えております。

最後に、この大綱の対象期間についてであります。

国では4年から5年程度を想定しておりますけれども、私は、教育は一貫した方針の下で安定的に行わなければいけないという考え方を持っております一方で、将来的には、社会情勢や施策の展開状況など、様々な状況に応じた弾力的な対応も必要になってくるのではないかと考えております。そういったこと

から、本市では、特段の期間を定めず、必要に応じて改定をすることにしたいと考えております。

以上が、大綱の案のご説明になりますが、これにつきまして、教育委員の皆様からご意見を頂戴いたしたいと思っております。

時計回りで皆さんにお伺いしたいと思っております。

臼井委員、いかがでございましょうか。

○臼井委員 最後に市長がおっしゃいましたが、大綱の期間についてのお考えの中で、4、5年をとということがあったようですが、市長は、特段の期間を設けず、必要に応じて協議して、変更の必要があれば変えるということでもありますね。

実際に大綱の中身を見ていますと、時代の要請を受けながらも、早期に変えなければいけないということもなく、ある種の普遍性を持っている内容でありますので、この点については、市長がおっしゃるように、特段の期間を設けずということは全くそのとおりと思っております。

○秋元市長 池田委員（官）委員、いかがでしょうか。

○池田（官）委員 大綱を拝見しますと、札幌市の教育振興基本計画を踏まえて、非常に立派な大綱をお作りいただけたと思います。その中でも、取組の柱の1番目の「子どもたちが安心して生活し学習することのできる環境を整えます」ということをうたっていたのは、大変ありがたく思います。

子どもたちについて、いじめ、あるいは、少数者やマイノリティーの方、特別支援教育の対象になる方など、そういった方たちが安心して学習することができる環境を整えるということは札幌市にとって非常に大事なことだと思います。

また、一人一人のお子さんや教職員の皆さんが孤立することなく、それぞれの現場で教室や職員室などで自由闊達(かっただつ)な議論を行っていけるような場を整えていければ大変よろしいのではないかと思います。

また、大綱では子どもの教育について主に触れていらっしゃいますけれども、先ほど市長がおっしゃっていたように、教育については、生涯教育、大人の教育といった視点もあるのだということを市長から一言いただけたのは大変ありがたいことだと感じました。

○秋元市長 今のお話のように、教育というのは本当に様々な年代の方が対象であり、生涯教育をしっかりと取り組んでいかなければいけないという基本姿

勢を持った上で、この大綱の中では、一つの施政方針として、これからの札幌のまちを担ってもらう子どもたちを中心に視点を当てて教育大綱を定めていきたいという思いを持っておりまして、先ほどのようなお話をさせていただきました。

阿部委員、いかがでございますか。

○阿部委員 大綱では、方針の「世界の舞台で活躍する」という言葉や、取組の柱の「国際的な視野で」という言葉など、今、子どもたちの中でも少しずつ芽生えてきているグローバルという言葉にすごく通じている言葉が含まれていて、私としては非常にいいなと感じているところであります。

一方では、私も含めて、子どもたちも保護者の方もそうだと思うのですが、世界、国際的、グローバルという言葉にまだなじめない、経験もまだ少ないということもあると思いますので、そういった方には若干抽象的に映ってしまう部分があると少し感じることもありますので、もう少し具体的でわかりやすい補足の言葉が含まれていると、皆さんにとっても子どもたちにとっても、非常にわかりやすく、前に進む勇気の背中押しになるのかなという印象を少し受けました。そのあたりの市長のお考えをもう少し詳しくお話しいただけたらありがたいと思いました。

○秋元市長 ここでは、「世界の舞台」と表現させていただきましたけれども、必ずしも海外で活躍するということを考えているわけではありません。今、これからの時代、経済的あるいは政治的なこと、また、平和の問題を考えるに当たっても、国内のことだけを考えていけばいい時代ではなくて、札幌市のことはもちろんでありますけれども、道内、他市町村など、国内の地域のことのほか、海外のことなど、いろいろな視点を持って考え、行動してほしいと思っております。

海外で活躍する子どもだけをイメージしているのではなくて、世界、あるいは、多様性という視点など、様々な視点から物事を見ていただき、そういった考えを持ってそれぞれの役割の場で活躍できる子どもを育んでいこうと、そう思っております。

今、札幌市内であっても、海外からもたくさんお客さんがいらっしゃいますから、日常的にコミュニケーションもとらなければならないですし、為替の問題一つとっても、それが自分たちの生活にどう影響してくるのかなどについて、否でも応でも考えていかざるを得ない時代になっています。そのように見たときに、自分のできること、自分の力を発揮できることは何かを考える視点という意味で「世界の舞台」という表現をさせていただきました。

必ずしも国際的に活躍する人、あるいは、海外に行っているいろいろな行動をとる人について表現をしたかったわけではなく、世界の舞台を意識し、様々な視点を持ってほしいという意味です。

○阿部委員 ありがとうございます。

○秋元市長 池田（光）委員、いかがでございますか。

○池田（光）委員 市長の今のお話を聞いて、非常にワクワク感が出てきました。というのは、世界を舞台に活躍するというのは、実際に世界に出向いてということではなくてというお話に感銘を受けたからです。

たまたまですけれども、私は商品を作って海外に売る仕事をしていたときがありまして、もともと私たちが海外に出向いて商品を説明している際、もしかしたら、逆にバイヤーや向こうの方たちに札幌に来ていただいて商談会をやったらいいのではないかという思いに至ったことがあります。そこで、実際にやってみますと、商品の説明にプラスして、そこに住む人々の生き方やあり方、幸せな笑顔をバイヤーが見て、その商品がどんどん売れるようになったということが最近起きてきたのです。

そこで、今年の11月には、60名ぐらいのバイヤーに来ていただくことになりました。もちろん私たちの商品を見ていただくのですけれども、それ以外にこの街を見てもらって、安心して豊かな札幌を見てもらうことによって、もっともっと広がりが出てくると思うのです。そういう土壤のある札幌に暮らせて、また、仕事をさせていただいて、本当に幸せだなと思っているのです。

それは、とりもなおさず、行政の人たちがいろいろな形で札幌の魅力づくりをしてきた、それも市民と協力しながらやってきたということが非常に大きな成果として表れていると思うのです。今度はそれが子どもたちにもその気持ちに移って、世界を見た中での自分たちの生き方や世界を見た中での地域のあり方など、そういうことを学ぶ環境ができてきたなということで、今回の取組、方針も今の時代、これから先の時代に合致した施策だなと思って、心からうれしく思っております。

実際に11月にバイヤーが来るのですが、札幌市内の学校にバイヤーが行ってお話をしてもらう機会が具現化しそうでして、私たちも教育委員として自分が持っているものを子どもたちにどう伝えていくかという大事な局面に来ているなと思っております。

今、市長がおっしゃったように、国際的な視野で創造的に考える子どもたちが生まれると、おそらく世界の中で日本が必要になり、世界の中で北海道、札

幌が必要になる時代がどんどんやってくるだろうと思いますし、実際にやっているといます。そうした中で、子どもたちを豊かに育てていくための教育に携わる者として、責任を改めて感じております。

ですから、私たちと秋元市長を中心とする行政の人たちとのスクラムを組んで、子どもたちのための環境づくりに私も邁進したいと思いますし、ぜひ今まで以上の体制づくりをしていただければありがたいということを改めて感じております。

本日の話は、大変心強く思いましたので、私どもも一生懸命頑張っていきたいと感じております。

○秋元市長 今お話がございましたように、大綱を定める上では、教育委員会の皆様方にご議論いただいたものと教育基本計画がベースにあります。そういったものと私の方針に齟齬（そご）がないということで、先般も申し上げましたように、教育基本計画をベースにしながら具体的な施策を進めていきます。

一方で、市長部局と教育部局との連携をしっかりとしていかなければいけないという法の趣旨からいって、そういった中で大きな方針としての大綱として共有できるものを定めたいということで比較的シンプルな形にさせていただきました。

今、池田（光）委員からお話がありましたし、先ほど阿部委員のご意見にもお答えいたしましたけれども、単純に海外でということではなく、繰り返しになってしまいますけれども、札幌のことをよく理解しながら、そして、国内のことはもちろん、ほかの地域の人たちのこと、文化や生活などを理解し合っていって交流していくということがますます必要になってきますので、そういう意味でのグローバルを意識しながらこれからの教育を進めていかなければいけないだろうという思いでおります。

○池田（光）委員 本当にありがたいと思います。

○秋元市長 山中委員はいかがですか。

○山中委員 私は、この大綱を最初に頂戴したときに若干気になったところがありました。その関係で二つほど申し上げるつもりですが、先ほどからの市長の大綱についての考え方のご説明、あるいは、ほかの教育委員の方からお話があったことについてさらにご説明されたことで私が心配していた点はそれなりに解消できたかなと思います。ただ、そういうことを踏まえても、表現としてそれでいいのかなと思っている部分がございます。

一つは、教育の大綱を定めるに当たっての基本的な姿勢です。

先ほど、市長から札幌の未来を担うということを考え、子どもの教育を中心に述べているのだというお話がございました。そういうことであれば、大変結構なことだと思っておりますが、まちづくりの原点は教育にあるということです。まちづくりの基本というのは人づくりですし、そのもとに教育があるのだらうと私は思っております。ですから、その教育というのは、結局、未来の札幌を支える人をつくっていくことになるのだらうと思うのです。そういう意味で、先ほど、市長が札幌の未来を担うということから子どもの教育を中心に進めていくのだとおっしゃったことは結構だと思っております。

ただ、基本的な姿勢について、この大綱を定めるに当たってより明確にしていくことは、大綱自体にはそういうことまで盛り込んでいないにしても、大綱を説明する上では非常に大事な部分だらうと思うのです。札幌の未来を考えて、札幌の子どもたちにどのように育ってほしいか、どのように生きていてほしいかを考えているのだという姿勢を示していただきたいと思うところです。

もう一つは、阿部委員からもご指摘があったことと関係するのですけれども、「世界の舞台で活躍する『さっぽろっ子』」という言い方です。

市長からありましたように、世界に出て行って活躍するようなさっぽろっ子ということではなくて、国際的な視野を持ちながらいろいろなことに取り組んでいくのだということでございますから、それでいいのかもしれないとは思いつつ、教育の方針として、「世界の舞台で活躍する『さっぽろっ子』を育てます」と言えば、言葉の意味としては、例えば、学術研究、スポーツ、芸能文化、企業活動、ボランティア活動等、いろいろありますけれども、そういうことで海外に出て行って活躍してくれるような子どもを育てるのだというふうに受けとめられてしまうことは仕方がないというか、どうしてもそういうふうに受けとめられるだらうなという気がするのです。

しかし、考え方としては、日本にいながらいろいろな分野で大きな成果を上げ、世界的に活躍することも、ここで言う世界の舞台で活躍するさっぽろっ子なのだと言えるかとは思いますので、方針の言葉の意味としては狭いです。行政的、あるいは、政治的な目標としてはスローガン的なものでいいのだという考え方もあるかなとは思いますが、先ほど阿部委員も言われましたように、もう少し具体的なところに目を向けてほしいと思います。

私が育った時代では世界に出て行って活躍することは夢のまた夢でしたけれども、現在では現実的になってまいりました。しかし、現に札幌に住み、札幌で教育を受けている子どもたち、あるいは、今後生まれてくる子どもたちの目指すところが仮に世界に出て活躍するのだということであっても、現実には決

してそうではないし、札幌市として札幌市に根づいてほしいということも当然ではないかと思うのです。

世界的視野を持って活躍していってくれることは非常に大事なことですけれども、必ずしも世界に出ていく必要はありません。いろいろな分野で、あるいは、目立たないところで本当に一生懸命頑張って、自分の目標を持ち、その場、その地域、その分野で光輝くさっぽろっ子もいるだろうし、いてほしいのです。むしろ、数としては、札幌に残り、あるいは、道内に残り、あるいは、国内に残って仕事をし、生きていくという子どもたちが圧倒的だと思うのです。

そういうことを考えますと、未来の札幌市民を育てる、あるいは、札幌で教育を受けた子どもたちが道内や日本国内に散らばって、どこへ行ってもそれぞれの分野、それぞれの地域で自信を持って一生懸命頑張っていける子どもたちを育てるのだということが方針としてもより明らかになるほうが望ましいのではないかと私は思うのです。

そういう意味で、「世界の舞台で活躍する『さっぽろっ子』」と限定されたような表現になってしまうことについては、正直言っていかがなものかなという感想を持っております。

例えば、「世界の舞台で活躍する」という部分を「世界に輝くさっぽろっ子」、あるいは、「世界に発信するさっぽろっ子」というように、もっと広いほうが教育の方針としては望ましいのではないかと思います。

それは、先ほど市長も言われたように、教育とは、数年のスパンではなく、将来に向けて長いスパンで考えていかなければなりません。もちろん、時代の中で柔軟に対応すべき部分も出てくるだろうということで、その意味から期間を決めないのだとおっしゃいましたね。それはそれで大事なことです。教育の方針として、将来に向かって札幌市の子どもたちにこういうふう to 育ててほしいということであれば、もう少し幅広くしたほうがよいのではないかとすることが私の基本的な考え方でございます。

○秋元市長 趣旨として私が考えていることを先ほどご説明させていただきましたが、一方で、今、山中委員、先ほどの阿部委員からもお話があったように、「世界の舞台で活躍する」という言葉の表面からは、海外の場で活躍することだけが望まれると受け止められがちだというお話がございました。

趣旨としてはお分かりをいただいて、ご理解をいただいていると思いますが、表現として、もう少しわかりやすく、あるいは、幅を広げたほうがいいのではないかというご意見でしたが、いかがでしょうか。

○池田（光）委員 「世界の舞台で活躍する」ということについては、自分自

身には違和感がありません。これからは、どんな場所にも「世界の舞台で活躍する」というキーワードが必ず必要だと私は思っているのです。

自分の書斎でもどこでも、世界的にはどうなのだろうかなど、今までにない一つのファクターを入れながら考える習慣を付けるようにしているのですけれども、そういう意味では、「世界の舞台で活躍する」というほうが具体的にイメージでき、分かりやすいのではないかと私は感じました。

ただ、「世界の舞台で活躍する」というのは、外へ出てしまうという意味ではなく、自分の生活の中にも世界の舞台が常にある時代が来ていると捉えて、私はとても素晴らしいなと思ったので、違和感がなかったのです。

ただ、皆さんにそういうふうに言われたということを考えてみると、一般的にはそういうふうにとられるのかなという危惧もしております。でも、いろいろな舞台があるのだということを子どもたちに訴える意味では適切な言葉ではないかと私は感じております。

○山中委員 ちょっと補足させていただきます。

私も個人的には「世界の舞台で活躍する」というほうが非常に受け止めやすいのですが、子どもたちの立場に立ったときに共有できるかという問題も考えたほうがいいかなということです。

つまり、子どもたちは、いろいろな夢を持っているし、いろいろな思いがあると思うのです。それに対して、大人目線から、世界の舞台を意識して行動していくのだと言うということで、それも大事なことですし、そういう意識を取り組みの中ではやっていただくとしても、目標としては、子どもの立場に立った場合、子どもも同じように目標を共有できるのかということからすると限定されてしまっているのではないかという心配を持っているということです。

○秋元市長 ほかの委員の方々はいかがですか。

○池田（官）委員 私も最初に拝見したときに「世界の舞台で活躍する」にはあまり違和感を持ちませんでした。おそらく、それは取組の柱の3点目の「思いを持ちながら国際的な視野で創造的に考えることができる子どもたち」という文言があるから、それを念頭に置いていたからだと思います。

趣旨に関してはそのとおりでと思うのですが、表現としてということ言われてみると、例えば、今回、ラグビーのワールドカップがありましたけれども、そういうふうには世界のトップの分野に行くことを目標にしていると読み取れるように思います。

そういう意味では、もしかすると趣旨が変わらないように表現を変えるほう

がよろしいかなとも感じました。

○阿部委員 私は、最初にこの大綱を読ませていただいたとき、「世界の舞台」というイメージから、海外で活躍する札幌の子どもたちを育てたいという誤解がありました。しかし、市長からご説明を伺ったときにそればかりではないのだということが分かりました。

ただ、例えば、これを読む子どもたちや保護者の視点に立ったときに、皆さんに分かりやすくお伝えできるかを考えると、その方によって様々な解釈があると思うのです。ここでは非常に分かりやすく説明をいただいたのですが、子どもたちがこれを見たときにどう感じるかということを考えますと、子どもにも分かりやすいような表現のほうが伝わりやすいのではないかと感じます。

○秋元市長 臼井委員、いかがですか。

○臼井委員 私は、教育の方針と取組の柱のある種の対応関係で考えてみたのですが、方針ではどうしても短い表現で圧縮した言葉を使わなければならないと思うのです。ですから、ある意味での幅の広い表現を使うことになると思うのです。

例えば、「生きる力」一つを考えてみても、これ自身はとても大きなものです。自殺予防やいじめに対して生きる力ということはありませんけれども、文科省や中教審の答申なんかで言っていたのは、自ら問題を発見し、それを解決するということで、今までのように、与えられた問題を解決するのではなくて、自分で問題を発見するという意味で主体的な取組なども含んでいるわけです。このように、「生きる力」一つを考えてみても、受け取り方はかなり多様で、ご指摘のことはあり得る話だと思います。

そう考えて「世界の舞台で」という言葉を直観的に見ると、国を出て世界で活躍するという見方ができることは間違いないと私も思います。しかし、その一方で、世界を舞台というのは日本もその一つになるわけです。われわれがどんなことを考える場合でも、世界との相互の影響を意識しなければ、極端な話、いかなる意思決定もできないというようなこともあります。

そこで、取組の柱の３点目にありますように、それをより具体的なことに置きかえ、国際的な視野で物を考えるということから考えれば、方針として短い言葉で言わざるを得ないため、このようなことになるのは肯定いたします。

○秋元市長 教育長はどうですか。

○**長岡教育長** 各委員のお話にありましたように、「子どもの視点から具体的な分かりやすい言葉を」というご指摘については、それもそうかなと思います。ただ、基本に立ち返って、市長が定める大綱というごくごく基本的なスタンスから考え、秋元市長の施政方針をもう一度読み返してみました。

「私が取り組む四つの挑戦」という「女性が輝き子どもたちが健やかに育つ街」さっぽろをつくるというくだりの中で、「子どもたちの中にある『生きる力』を育み、大きく伸ばすことで、世界の舞台で活躍する『さっぽろっ子』となっていくことを期待」という文言がございます。

また、私ども教育委員会が今年の春に策定いたしました札幌市教育振興基本計画がございますが、そこには札幌市の教育が目指す人間像、基本的な方向性として「自立した札幌人」という言葉を置かせていただいております。

そして、その「札幌人とは」というくだりの中では、「その恵まれた環境の中で育まれる創造力や豊かな心などの総合的な素養を生かし、ふるさと札幌への思いを心にもち、伝統や文化を尊重しながら、国際的な視野ももって、札幌をはじめ様々な地域や国で活躍する人のことです」というくだりがございます。

ですから、基本的な考え方としてはそれほど違ってない、同じ方向性を向いていると受け止めてございまして、大きな違和感を持っておりません。

そこで、「世界の舞台で活躍する」という言葉ですが、先ほど市長がおっしゃったように、様々な場、様々な分野、様々な視点を持っておのおのの役割を果たす子どもになってもらいたいということを期待しているという言葉がございました。

一方で、一般的には、「世界の舞台で活躍する」というのは非常に幅広の表現でございますけれども、いろいろな思いを包含する言葉と捉え、教育の方針なり、三つの柱を考えてみました。これはスローガンの的ならざるを得ない部分があるとしても、先ほど臼井委員からあったとおり、「生きる力」あるいは、「創造的に」など、非常に分かりにくい言葉もあります。しかし、「世界の舞台で活躍する」という言葉には、そうではない子どもがいることは十分にわきまえながらも、子どもが夢を持って大きく羽ばたくということについて、意思を持って発信するという意味合いもあると思うのです。

ですから、そういうふうに育ってもらいたい、夢を大きく持ち、それを実現する力を持って羽ばたき、いろいろな役割を担いながら活躍してもらいたいという意味合いだとすると違和感がない言葉になるのかなと思っております。

○**秋元市長** 冒頭に申し上げましたように、私としては、必ずしも海外の場で活躍することではなく、日本の中にもあらゆる面で世界の中の一地

域として考えていかなければならない時代になってきていると思っておりますし、これからはそうした動きがますます強くなっていくのだろうと考えております。

ですから、住んでいる場所、あるいは、仕事をしている場が札幌や北海道であるかもしれないけれども、仕事のやり方ほか、様々な場面が世界という中の一つに取り込まれていく時代にますますなっていくのだろうと考えたとき、国という意味での世界とは捉えず、こういう表現にさせていただいたわけです。

先ほど、山中委員からは、「そうは言っても、一般的に受け取るイメージはもうちょっと狭く見られるのではないか」というご意見もありました。こういったものはできるだけ多くの人に共有してもらえるのがいいのだろうと思えますし、私の思いが一般的に受け止められるかどうかということだと思えますが、山中委員は、今のお話を踏まえてどうでしょうか。

○山中委員 決してこだわるつもりはございませんが、どのように受け止められるかということは意識していただきたいと思えます。そして、そのためには、大綱を定めるに当たっての解説というか、思いをもう一枚別に用意して、先ほどの基本的な教育についての考え方と併せて、こういうことを考えているのですよということをきちんとご説明いただくほうがよろしいのではないかと思います。

○秋元市長 皆さん、どうでしょうか。

一つは、今、山中委員からご指摘があったように、きちんと理解を得られるように説明をしていくということです。もう一つは、明確にこの部分を変えたほうが良いということもあろうかと思えます。

この辺はいかがでございませうか。

○池田（光）委員 「世界の舞台」については、具体的にイメージできる言葉が全体の大綱の中で使われているのではないかと思いますので、そういう意味ではこの言葉はぜひ残してもらいたいと思えます。

例えば、「世界で輝く」「世界で活躍する」「いろいろなところで活躍する」と書くと総花的になってくるので、こういうポイントが一つあるとすごく生きてくるのではないかと私は感じているので、ぜひこの言葉を残してほしいと思えます。

確かに、そういうふうにかかれたときに共通して答えられるようなものがあれば十分なのではないかという気がします。

○池田（官）委員 私も、最初に見たときに違和感を持たなかったと申しました。ただ、これを見た方がどういうふうに理解するか、いろいろな深い思いや意味があるのだということがきちんと伝わるのが大事だと思いますので、ぜひ補足的な説明を添えていただければと思います。それによって、この文言自体は伝わったり、理解していただけたりするのかなと思います。

○阿部委員 私も、山中委員からご説明がありましたように、また、本日市長から非常に納得がいくご説明もいただきましたので、補足的な説明をいただけるようでしたら、皆さんにも共有してお伝えいただける内容かなとは思っていますので、そのように進めていただければいいかなと感じております。

○秋元市長 臼井委員、よろしゅうございますか。

○臼井委員 できましたら、山中委員からお話がありましたように、この大綱が作られた背景について、短い趣旨説明をお願いいたしたく思います。

内容については、私はこちらで妥当ではなかろうかと思います。

○秋元市長 先ほど、臼井委員からもお話がありましたように、例えば、「生きる力」という言葉一つとっても、いろいろな捉え方があると思いますので、どういうふうに表現するのが妥当なのかは非常に悩ましい部分があるかなと思います。ただ、先ほど申しましたように、「舞台」という言葉を「場」という意味に捉え、世界の場合は、国外ということではなくて、札幌のエリアも含めた全体が世界の場合は、舞台なのだという趣旨で私は表現をさせていただきたいと思っております。

先ほど、山中委員からもお話がございましたが、そういう趣旨も含めて、内容がきちんと理解され、伝えられるような工夫は当然していかなければいけないでしょうし、情報発信もしていかなければいけないだろうと思います。

そういう意味では、表現については様々なご意見があろうかと思いますが、先ほど山中委員からもお話がございましたように、趣旨をきちんと説明させていただくという前提で、大綱につきましてはこれで決定させていただくということではよろしゅうございますでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○秋元市長 ありがとうございます。

それでは、本日いただいたご意見につきましては、様々な補足的な説明も含

めて、ここに込められた意味や意図をできるだけいろいろな方に共有していただけるように発信させていただくことにしまして、大綱を決定させていただきたいと思います。

教育長は、よろしいでしょうか。

○長岡教育長 はい。

○秋元市長 町田副市長、何かございますか。

○町田副市長 私から、一言、コメントさせていただきたいと思います。

本日は、本当にありがとうございます。

教育委員会制度がこの4月から変わりまして、今回は2回目でございますが、総合教育会議といういろいろな議論をする場ができたことは、札幌の子どもたちや教育のためにとって非常にいいことだと思います。

札幌市は、法改正の前から教育委員会と市長部局ではいろいろな議論が行われ、教育についていろいろな施策を実行してきたところでございますが、こういった制度ができて、市長と教育委員の皆様との間で公開の場でいろいろな意見交換ができることは非常に大きな意義があることだと思っております。

先ほど、山中委員からも「札幌の未来のためには教育が根幹となる」というお話を改めて承りましたが、札幌市と市長部局としてもまさにそのとおりだと思います。今、札幌市では、これからの少子高齢化時代を見据えて、「さっぽろ未来創生プラン」の施策をまとめているところでございますが、その中でも、札幌の未来を創生していくためには教育が非常に大きな根幹であるとされており、その中で政策をどう実行していくのかがあります。

教育政策は、ある意味、多額の投資を必要とする場合がございますので、長期的に戦略を持って、どういう順序で、どういうふうにやっていくのか、市長部局と教育委員会できちんと議論していくことがこれからより必要になるわけでございます。そういう中でありますので、総合教育会議もいろいろな形の議論をする場としてますます有機的に機能していくのではないかと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

○秋元市長 ありがとうございます。

それでは、教育の大綱につきましては、本案のとおり策定させていただきたいと思います。

策定に当たり、そして、今後発信をしていくに当たって、山中委員からご指摘がございましたが、基本的には、まちづくりの原点として、人をいかに育て

ていくかということがあると私も思います。いろいろなことがありますけれども、その地域を愛して、その地域の中で創造性を発揮していける人材をいかに育てていくのかでして、これはいろいろな分野だと思います。

地域の生活を豊かにしていくためには、その中に住む、そして、そこで生活していく人をしっかりと育てていくことが最も重要だろうと思っていますし、これからの時代においては、様々な視野を持って、いろいろなことを考え、行動していける人材を育てていくことも重要だと思います。そして、それは単純に学力だけの問題ではなくて、「生きる力」と表現しておりますけれども、そういった人材をつくっていくことがますます重要になってくるのだらうと思いますので、そのことをしっかりと肝に銘じたいと思います。

今回の大綱では、子どもの教育にスポットを当てて対象とさせていただきました。そこを最重要課題としながらも、生涯教育も含めて、人材をどう育てていくかということにしっかり力を入れていきたいと思っています。

加えて、様々な考え方について、誤解のないように、あるいは、できるだけ多くの皆さんに共有をしていただけるような情報の発信、説明の仕方に留意していきたいと考えておりまして、ご指摘をいただいた点はしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

本日は、いろいろな具体的なお意見を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○長谷川生涯学習部長 皆様、活発なお協議をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、大綱に関する協議につきましては以上で終了とさせていただきます。

せっかくの機会でございますので、皆様から何かご発言等はございませんでしょうか。

○池田（光）委員 一つよろしいでしょうか。

本日の会議の価値はすごいなと改めて認識しております。また、先ほど、町田副市長からもありましたが、さっぽろ未来創生プランなど、教育に関するいろいろな施策がこれからますます重要度を帯びてくると思います。

それを踏まえますと、毎年1月か2月ごろに次年度の予算編成を組むかと思っていますので、その時期に合わせ、今のような施策や予算案のことも含めた意見交換ができればありがたいと思います。

その時期を見つけてぜひ開催していただければありがたいと思いますので、お願いいたします。

○**長岡教育長** 今、池田（光）委員からもお話がございましたけれども、どの教育委員も、教育を充実させ、さらなる教育施策の推進を図っていききたいという非常に強い思いを持っています。

市長、副市長と私どもでしっかり連携し、教育行政の発展に邁進してまいりたいと考えておりますので、ぜひこれからもこういう機会を設けていただければ思っております。よろしくお願いいたします。

○**長谷川生涯学習部長** ありがとうございます。

ほかに何かございませんでしょうか。

○**秋元市長** 今、委員からお話がありましたように、今回の大綱策定をした意義の中でも申し上げましたけれども、教育委員会と市長部局の連携を密にしていくという意味での一つの大きなきっかけにしたいと考えております。

もちろん、例えば、まちづくりの計画や子育て環境をどうしていくのかも含めて、教育の問題と切り離せないいろいろな施策があります。どちらかという、今までは、教育委員会に関連するいろいろな予算や計画のご説明をさせていただく場面が中心だったと思いますけれども、これからのまちづくりの方向性、あるいは、子育て関係はどうなっているのかなど、そうした情報提供も含めて、機会を密に持って、皆様方のご意見を頂戴できるような機会をしっかりと持っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○**池田（光）委員** 本当にありがたいと思います。

【閉 会】

○**長谷川生涯学習部長** ありがとうございます。

それでは、本日はこれで終了したいと思います。

本日は、ありがとうございます。

次回につきましては、予算案を含めた協議のご提案がございましたので、来年度の予算案の策定状況等を見ながら開催日程等を調整させていただきたいと存じます。

以上で、本日の総合教育会議を終了いたします。

以 上